

## 施設における多目的室の計画

○田淵麻尋<sup>1</sup>, 二瓶士門<sup>2</sup>, 佐藤慎也<sup>3</sup>  
Mahiro Tabuchi<sup>1</sup>, \*Shimon Nihei<sup>1</sup>, Shinya Sato<sup>2</sup>

This study is a preliminary investigation to present the layout plan and spatial configuration of multipurpose rooms in each facility. This synopsis summarizes the issues found in previous research.

### 1.研究背景

室において単用として計画されるのではなく、多目的役割を持った室が計画されることがある。特に都市に立地する施設は敷地面積に限りがあることも影響すると考えられる。しかし、単に多目的空間、多目的室として設置されたものは、実際の利用用途が明確でない点などから利用率が低い事例がある。既往研究においても岡山県の多目的ホールに関する利用実態と建築計画上の問題を明らかにした研究[1]や、立地や生活・公共利用では不便な位置に置かれている問題点[2]をあげた議論もある。本研究の目的は、多目的室の事例を調査した研究に焦点をあて、多目的室が抱える問題点を整理し、多目的室とはどうあるべきかを明らかにすることである。

### 2.研究計画

多目的室はさまざまな施設の中に存在することが既往研究を調査し分かった。オフィスにおける多目的空間、学校における多目的室、カフェにおいても会議や勉強といった当初の計画とは違う多目的利用が見られる。

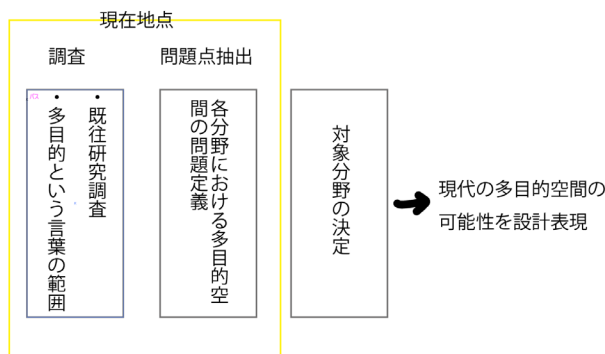


図1 研究計画フロー

まず、既往研究に焦点をあて、多目的室に関連するキーワードを整理する。次に、多目的ホール、オフィス、学校など各施設において利用効率が悪い理由を既往研究から整理する。その後、多目的室の実施調査を経て、計画を提案したのち設計する。

### 3.キーワードの整理

日本建築学会の論文[3]においてキーワードを検索し表1を作成した。多目的という言葉を含む論文数は859件である。多目的室など計画の側面を研究しているものに絞ると77件であった。

表1 多目的関連論文数

キーワード	論文数
多目的	全 859 件 *2024/07
多目的室	全 77 件
多目的 利用	全 116 件
多機能	全 387 件
多機能室	全 19 件
多様室	全 53 件

キーワードについては多目的という言葉以外に多機能や多様室などが見られた。今後はコミュニティやパブリックスペースといったように言葉を変えた既往研究も調査する予定である。表2では、多目的室を持つ施設ごとに既往研究における主な調査方法と問題点をまとめたものである。

表2 各分野における主な調査方法と課題点

調査対象室	調査方法	課題点
学校	・アンケート調査 ・ヒアリング調査 ・実測、実態調査	・多目的室の配置計画問題 ・多目的室の建築設備(家具など)問題
オフィス	・アンケート調査 ・ヒアリング調査 ・実測、実態調査	・音りが生産性に影響をすることが客観的定量データによる指標の妥当性を検証する必要性 ・多目的エリアは他者とのコミュニケーション、開放感に満足がある一方で個人利用には不満が多くなる。
多目的ホール	・使用目的調査 ・ヒアリング調査 ・実測調査	・多目的ホールの機能的問題 ・多目的ホールの基準点の曖昧さ ・建設に大きな費用を必要とするために、運営による事業収入は考える必要
広場	・アンケート調査 ・ヒアリング調査 ・実測、実態調査	・常設商業施設は公共空間損失や広場の維持管理が難しくなる懸念
商店街空き家	・アンケート調査 ・ヒアリング調査 ・実測、実態調査	・多目的としてのスペースを設け地域活性化につながることは見受けられたが、運営者の負担が大きい
海岸沿い	・アンケート調査 ・ヒアリング調査 ・実態調査	・多目的利用をしたとき新たなごみ問題などの発生

1: 日大理工・院(前)・建築, 2: 日大理工・教員・建築, 3: 日大理工・教員・建築

表2における各施設の具体的な調査内容と問題点を3.1から3.4に示す。

### 3.1 学校における多目的室の位置づけ

多目的に関する論文において、最も頻出した施設は学校関連である。表3は学校の多目的室における既往研究でアンケート項目[4]として使われていた設問である。

表3 多目的室利用に関するアンケート項目

作業行為に関する設問項目	物的環境に関する設問項目
1. 使用目的のおこないやすさ	11. F.W.S. 全体の使いやすさ
2. 個人作業のしやすさ	12. 周囲の話し声や騒音のうるささ
3. グループでの作業のしやすさ	13. 室内の空調
4. 机での作業全般のしやすさ	14. 室内の照明・明るさ
5. 読み・手書き作業のしやすさ	15. 使用したレイアウト
6. コンピュータでの作業のしやすさ	16. 机の使いやすさ
7. 作図・制作作業のしやすさ	17. イスの使いやすさ
8. 発表・プレゼンテーションのしやすさ	18. 本日使用した可動間仕切りの状態
9. 作品の展示のしやすさ	
10. 机・イスの移動のしやすさ	

学校における多目的室の問題点として他教室などとの配置における課題が指摘されている。その他に、表3のアンケート項目からわかることとして、机椅子などのレイアウトの自由度、可変性が重要視されていることが分かる。多目的室の配置以外に、家具の備えも重要であることが分かった。

### 3.2 オフィスにおける多目的空間

オフィスにおける多目的スペースは主にカフェを併設することが多い。働き方が問われている現代において場所の選択自由度が求められる。ある研究ではカフェ設備のある働く空間についてアンケート調査[5]によって〈表4〉を明らかにしている。

表4 オフィスにおける多目的室の満足・不満点

	満足	不満
ハード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リフレッシュの数の種類が多い</li> <li>・アクセスが良い</li> <li>・温度/湿度が快適</li> <li>・白い色使い、窓際なのが良い</li> <li>・外の景色が見える</li> <li>・喫煙スペースが屋外にある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リフレッシュできる適切な場所がない</li> <li>・リフレッシュ環境が不十分である</li> <li>・どこがリフレッシュできる場所が分からない</li> <li>・個人のリズムに合ったスペースがない</li> <li>・喫煙スペースが執務室と近いので邪魔</li> </ul>
ソフト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飲食することでリフレッシュできる</li> <li>・他の人と話ができる</li> <li>・雑談するゆとり(雰囲気)がある</li> <li>・廊下を歩いてリフレッシュしている</li> <li>・席を立つことに制約がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リフレッシュできる雰囲気がない</li> <li>・リフレッシュ環境の使い方が分からない</li> <li>・色々なことが起こってリフレッシュできない</li> <li>・人がいないので会話できない</li> <li>・周囲の目が気になる</li> <li>・サボっているとと思われる</li> <li>・周囲の音(物音、人の声)が気になる</li> <li>・音や動きで他の執務者に迷惑をかける</li> </ul>

他にも香りなどによって多目的な空間での生産性を高める研究[6]もある。香りによる研究は今後、オ定量的データによる指標の妥当性が求められる。

表4や香りの研究から、多目的室では開放感が求められる中で個人利用をどう促進していくべきかレ

アウト面からのアプローチが必要と考えられる。

### 3.3 多目的ホールに関する研究

多目的ホールは都心部と地方部で問題の兼ね合いが変わる。特に地方部では人口の少なさから単一用途では利用率が低いと考えられ経営として成り立たない点から、多目的という名目をつけられる[2]。しかし、その多目的に明確な用途定義がなく結局利用されない事例が見られる。またホールという点から設備面も必要用途が多く、利用者動線、関係者動線などの計画ともうまく組み合わせる必要がある。

### 3.4 その他多目的と捉えられる空間研究

多目的空間として他にも広場や、空き家、海岸沿いなどが挙げられていた。広場、海岸沿いは公共空地でもあるため人為的な建築的操作は必要ないように考える。対して空き家を多目的に変容することで地域活性化につながる傾向[7]が見えた。ここでの問題は運営者の人手不足というソフト面が課題と考える。

## 4. 今後の展望

どの施設も求められるのは多目的室の計画配置場所の重要性と可変性の自由度である。施設内のどの位置に多目的室が配置されると、どのような効果が最も得られるのか、家具までも設計することでレイアウトの自由度をどこまで表現できるのか調査していきたい。

### 参考文献

- [1] 森田孝夫：「岡山県における市民会館等の多目的ホールの使用内容と建築計画上の問題」、昭和56年。
- [2] 函師嘉彦：「多目的ホールの問題点」、建築雑誌、2月号、p82、昭和46年
- [3] 一般社団法人日本建築学会に登録された論文数、2024年7月調べ
- [4] 森本光亮：「大学のデザイン系演習室における空間の有効利用に関する研究(その6)：多目的利用に関する使い方およびレイアウトの提案」、2000年
- [5] 安田 莉：「カフェ設備を併設した多目的ラウンジスペースの発展的利用に向けたワーカーの評価構造の抽出」、2017年
- [6] 北村 薫子：「オフィスの多目的空間において音と香りがワーカーに与える影響に関する研究」、2014年
- [7] 井倉雅子「近隣商店街における空き店舗事業に関する研究：多目的施設の利用と今後の課題」、2001年